

平成 20、21 年度 大気汚染とお子さまの健康との関連を調べる調査のご報告

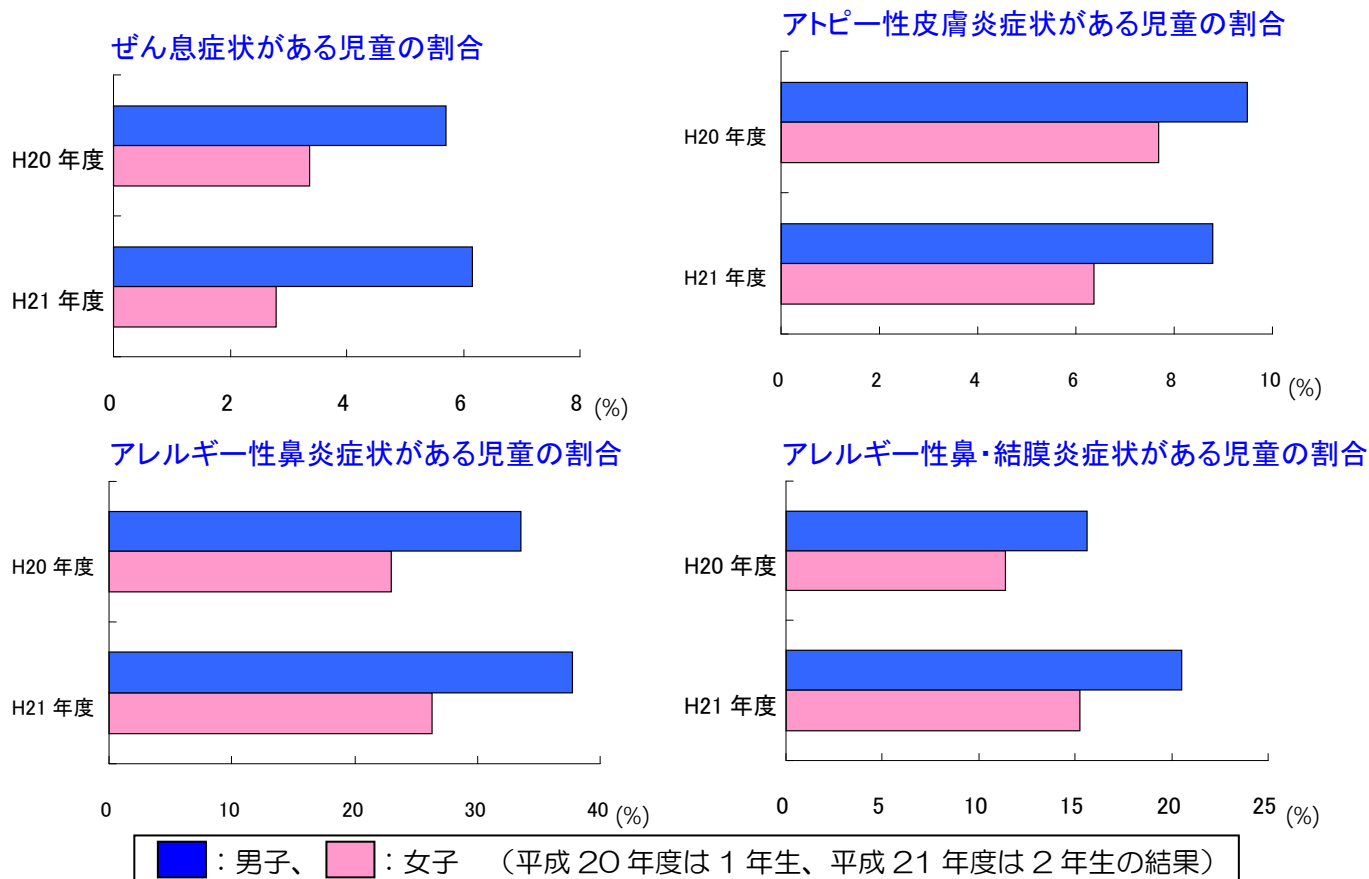
有効回答者数：平成 20 年度 2,578 名（1 年生）、4,660 名（2～6 年生）

平成 21 年度 2,587 名（2 年生）

加古川市と播磨町では、加古川地域における大気汚染の状況と小学生の健康状態との関連を検討することを目的としたアンケート調査を平成 20 年度から実施しています。

平成 20 年度は、地域内の小学校の 1 年生全員と大気環境測定局に近い小学校の 2 年生から 6 年生を対象に、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎に関連する症状についてお尋ねしました。平成 21 年度は、お子さんの成長に伴う症状の変化などを調べるために、小学校の 2 年生全員を対象にしました。同様に、平成 22 年度は 3 年生、平成 23 年度は 4 年生、平成 24 年度は 5 年生にご協力をお願いします。平成 24 年度は 20 年度と同様に、大気環境測定局に近い小学校では全学年にご協力をお願いする予定です。

調査は 5 年間の結果を取りまとめて解析を行いますが、平成 20、21 年度の結果より、ぜん息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性鼻・結膜炎症状について集計しましたので、ご報告します。



ぜん息の症状のある児童は、平成 20 年度は男子 5.7%、女子 3.4%、平成 21 年度はそれぞれ 6.2%、2.8%であり、男子ではやや増加、女子ではやや減少していました。アトピー性皮膚炎の症状がある児童は、男女ともに平成 20 年度に比べて平成 21 年度は減少していました。一方、アレルギー性鼻炎、アレルギー性鼻・結膜炎の症状がある児童は、男女ともに平成 20 年度に比べて平成 21 年度は増加していました。

小児のぜん息やアレルギー疾患は女子よりも男子に多いことが知られていますが、今回の調査の結果でも 4 つの症状はいずれも女子よりも男子に多くみられました。

このように、お子さまのぜん息やアレルギーの症状は成長とともに変化がみられますので、大気汚染との関係を検討するためには 1 度だけでなく、経年的に調べる必要があります。